

## 1 学校教育目標

## 【教育目標】

校是「天下第一関」の下、高い知性・豊かな情操・強い意志・健やかな身体を育み、円満な人間性と社会性を備えた真に次代を担うにふさわしい人材の育成を目指す。

- ・知・徳・体のバランスの取れた人間形成をベースに据えつつ生徒一人ひとりの進路実現を目標に教育活動を推進する。
- ・3年間を見通した教育活動を推進するために、全教職員で協働して取り組んでいく体制の強化を図る。

## 【中・長期目標】

- ・単位制に基づく特色ある教育課程を編成し、多様化する生徒の進路選択に適切に対応することにより、生徒一人ひとりの進路実現に努める。
- ・学習習慣の確立による学力向上と授業研究・授業評価の推進による授業改善に努め、地域の期待に応え得る進学実績の向上を図る。
- ・積極的情報発信及び地域との連携による、開かれた学校づくりに努める。

## 【令和4年度重点目標】

## 「探究心・洞察力・創造性の醸成」

- ① 学校運営: 社会の変化を的確に捉え、教職員の協働体制の強化及び家庭・地域・関係機関との連携により、信頼される学校づくりを目指す。
- ② 学習指導: 主体的・探究的な学びを通じた思考力や判断力の育成により、更なる学力の向上を図る。
- ③ 生徒指導: 自主・自律の校風を尊重しつつ規範意識を高めることにより、豊かな人間性を育てる。
- ④ 進路指導: 3年間を見通した組織的かつ系統的・適時的な指導により、自らの将来を描き、希望進路の実現を図る。
- ⑤ 学科間連携: 各学科それぞれの特長を活かし伸ばすとともに学科間の連携を行うことにより、教育の質の向上を図る。

## 2 現状分析並びに本年度重点を置いて目指す成果・特色及び取り組むべき課題

## 【学校運営】

- ・コロナ禍によって校外研修については、計画を抜本的に見直しを図ることとなった。今年度は、国内で可能な限りの研修内容を検討する。
- ・メール配信システムやホームページ等を活用し、新型コロナウイルス感染症対策や危機対応について適切な情報提供を行った。より即時性に基づいて進めていく。
- ・PTA役員の選出方法について、役員の方々から改善の要望が上がっている。今後は、役員会で検討され、新しい選出方法を説明・実施し、円滑なPTA活動を進めていく。

## 【学習指導】

- ・令和4年度以降の本校の教育課程の課題点を整備し、運用を進めている。今後も考えられる課題について引き続き検討する。
- ・新校務支援システムは運用3年目になるが、観点別学習状況の評価の実施で、1年次生と2・3年次生でシステムが異なる。ミスや業務の滞りが起こらぬよう運用していく。
- ・アクティブ・ラーニングやICTの活用に伴い、新たな授業展開の手法が見られている。新学習指導要領の目指す授業を継続的に啓発していく。

## 【生徒指導・教育相談】

- ・全校集会等を昨年度は、多くを放送で行った。今後も生徒会が主体的に呼び掛け、生徒同士で時間厳守や集合時のマナー等に関する意識向上に努めていく。
- ・「いじめのアンケート調査」を実施するとともに、生徒実態調査等も利用し、学校全体でいじめの未然防止、早期発見に取り組んでいる。また、何らかの兆候が見えた場合には、いじめ対策委員会を開き、担任、学年、生徒部と連携し、解決に向けて取り組む体制を取っている。生徒の兆候を見逃すことのないよう、担任、学年との連携を強化して組織として対応するとともに、互いの人格を尊重した態度や言動ができるよう組織的・計画的に人権教育にも取り組み、指導を行っていく。
- ・関係教員とスクールカウンセラー間の生徒情報の共有はスムーズに行われている。気になる生徒の行動を多面的に観察及び検討し、必要な支援の方法等の情報を共有して生徒支援を行う。また、「個別の教育支援計画」の作成と活用についての理解を深めるため、校内研修を実施する。

## 【進路指導】

- ・面談等の個別指導は進路検討会等を受けて実施することで、生徒の適切な目標設定の一助となっている。個々の生徒の志望と適性や能力を把握し、希望する進路の情報収集をする力を身に付けさせるとともに、短期的目標、中期的目標、長期的目標を立て、進路実現を図る。
- ・NCA(総合的な探究の時間)は、各学年とも概ね円滑に運営できている。今後も生徒の進路意識をさらに高めるよう、教材等に工夫を重ねていく。
- ・保護者に対する情報発信の手立てとして本校ウェブページ等を積極的に活用している。今後も「進路だより」の発行や進路講演会の実施等、進路意識の高揚に寄与するよう、適切な進路情報発信に努めていく。

## 【健康・安全】

- ・コロナ禍における新しい生活様式が定着してきている。今後も状況変化に即座に対応し、学校生活を維持しながらの感染対策を徹底していく。
- ・「保健だより」や学校保健委員会を通して、学校保健活動の様子を周知することができている。新しい感染症対策に関する情報も適宜加えて、今後も継続していく。
- ・体育の授業や部活動における怪我について、事前のミーティングや情報共有を行い、危機管理意識を高めて指導に当たっている。怪我発生時の初動対応、医療機関への連絡と同時に、保護者への連絡、その後のケアについて、関係者と情報を共有しながら進めていくことを徹底していく。

## 【図書・情報】

- (図書)
  - ・図書だより・図書カレンダーを定期的に発行するとともに、読書会は、感染症対策を講じながら、生徒が中心になって企画運営し、活発な会となっている。現時点での課題は図書館利用者が少ないことであり、より多くの生徒の図書館利用を促し、貸出冊数の増加に努めたい。
- (情報)
  - ・統合型校務支援システムについては依然として問題点が多いため、教務部と協力しながら、マニュアル等をより充実させ、より利用し易い方向へ進める。
  - ・これまでどおり、個人情報の保護・セキュリティには細心の注意を払いながら、適切な運用と諸情報を提供する。

## 【教育企画】

- ・探究科における教育活動は概ね充実したものとすることができている。今後は、さらなる充実をめざして学校設定教科「探究」の各科目における取組を改善し、生徒一人ひとりが「課題を発見する力」「課題を解決する力」「成果を表現する力」が身に付いたことを実感できるよう指導する。
- ・探究科等で取り組む探究活動のよさを広く周知するため、広報用リーフレットである「学びの速報」を適宜発行する。学校説明会などの機会を捉えては、中学生とその保護者に探究科の魅力について理解を促す。
- ・スーパーサイエンスハイスクール指定校として、引き続き先進的な理数教育を推進することにより、多様な視点から課題の発見や解決に取り組む生徒を育成する。

## 【業務改善】

- (学校組織)
  - ・コロナウイルス感染防止対策を進めていく中で、新たな知見に対応するとともに積極的なジョブローテーションを図るなど学校組織マネジメントを実践していく。
- (日常業務)
  - ・職員朝礼は、学校サーバー内の連絡掲示板に前日までに入力することが定着し、円滑になっている。今後は、職員会議等で事前に会議資料を提示するなどして時間短縮を図る。
- (働き方改革・勤務状況)
  - ・教職員のワークライフバランスを確保するため、部活動の適正な運営や業務の精選・効率化等を進め、健康で明るい職場環境づくりを推進する。

3 自己評価					4 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	学校行事の円滑な運営	・入学式、卒業式の円滑な準備と運営・業務分担の検討を行う。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・規模を縮小してではあるがPTA総会を開催するなど、各行事とも円滑に準備・運営することができた。	・感染対策を講じながらも各種行事や部活動の大会参加に御尽力されたことは高く評価できる。	A
	保護者との連携促進	・PTA役員と連携し、保護者がよりPTA活動に参加できるように方策を検討する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・PTA総会、常任委員会も開催でき、またPTA新聞もPTA編集委員の熱心な活動により発行することができた。	・高等学校のPTAのあり方は様々な意見があるかと思うが、役員選出方法の改善による円滑な活動が期待できる。	A
	情報発信の推進	・メール配信システムのより効果的な運用を目指す。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・ほぼ全員の登録ができた。コロナ感染関連も含め緊急メール配信数(99回)が増え、その運用を円滑に行うことができた。	・天候による休校やコロナに係る情報のメール配信は適切に運用できていると思われる。 ・ホームページについては改善がなされてきたが、一層の工夫をお願いしたい。	A
学習指導	新学習指導要領の円滑な実施	・観点別学習状況の評価が、生徒指導要録や通知票に円滑に記載できるよう、情報提供や協議等を行う。	観点別学習状況の評価についての情報提供や協議等を 4: 5回以上行った。 3: 3回以上行った。 2: 1回以上行った。 1: 全く取組めなかった。	3	・来年度は、1・2年次で観点別学習状況の評価が実施される。今年度実施した経験やノウハウをもとに、評価と指導の一体化を更に図っていく。(研修3回実施)	・観点別学習状況の評価を情報提供や協議等を行うことにより円滑に実施できるように今後も調整を続けてほしい。	B
	新校務支援システムの円滑な運用	・新校務支援システムにおいて、成績処理、出欠統計、指導要録作成及び調査書作成等の定着のため、情報部・進路指導部と連携して、マニュアルの作成や改善に取り組み、教科担当及び担任の業務を支援する。	システムのトラブルによって、提出期限に間に合わなかったことが 4: 全くなかった。 3: 1回以上あった。 2: 3回以上あった。 1: 5回以上あった。	4	・当システムの使用開始から3年になる。現場での適応に苦慮することもあるが、処理の遅延等はなく、業務を遂行できた。	・システム運用においては誤りが許されないものなので、マニュアル等の整備や他校でのトラブル案件の共有などによる未然防止に努めてほしい。 ・保護者と学校の連携は、十分に行われている。個別案件に対応する学校側の余裕を確保する必要がある。	B
	基礎基本の徹底と探究力の育成	・アクティブ・ラーニングに積極的に取り組み、確かな学力を定着させるための学習環境をつくる。	アンケートで「授業にアクティブ・ラーニングを取り入れている」の質問に対して 4: 肯定的回答が80%以上。 3: 肯定的回答が70%以上。 2: 肯定的回答が60%以上。 1: 肯定的回答が60%未満。	3	・アンケートで「授業にアクティブ・ラーニングを取り入れている」の質問に対して、肯定的回答は72%(教員回答)、84%(生徒回答)(いずれも1学期末)であった。教員と生徒で捉え方に差があり、単に生徒は活動的な授業と捉えていることが多い。	・十分な取組ができています。 ・高校生らしい考える力を伸ばしていくためにもアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れることを期待する。	A
生徒指導・教育相談	基本的な生活習慣の育成	・ホームルームや全校集会及び登校指導等、あらゆる機会を通じてマナー意識の向上を図り、時間厳守等、集団行動の際のマナーについての意識を徹底する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・コロナ禍の中で全校や学年での集会を開く機会は減ったが、ホームルームや登校指導などを通してマナー等の意識の向上を図った。また、一部のマナー違反に対しては学年・生徒部が連携して指導を行った。	・成年年齢の引き下げにより、高校在学中に成人となることの自覚を持てるような指導をお願いしたい。西高の自由な校風の原点は、ここにあると思う。	B
	自他の生命を尊重する豊かな心の育成	・様々な調査を通して、いじめの実態把握に努め、生徒部内で情報を共有し学年とも連携して、未然防止・早期発見に努めるとともに、スクールカウンセラーやPTA等、外部関係者との連携を強化する。	4: いじめ事案が発生しなかった。 3: いじめ事案が発生したが解消できた。 2: いじめ事案が発生し、解消途上である。 1: いじめ事案が発生し、解消途上ともいえない。	4	・いじめアンケートや生徒実態調査などにより、いじめの早期発見に期するとともに、教員間で生徒の情報を共有することによって生徒の状況の把握に努めた。また、いじめが疑われるような事案に対しては、即時的にいじめ対策委員会を開くなどして、教育相談的な視点も踏まえて対応した。	・引き続き、見えにくいところにも十分気を配って対応してほしい。 ・個別事案に対応することが求められ、答えがあるわけではなく、難しい問題ではある。その中で、迅速な対応がされていると感じている。	A
	教員・保護者及びスクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の確立	・教育相談連絡会を定期的に行うことで、気になる生徒について意見交換をし、生徒への支援の方法を検討するとともに必要な援助を行う。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・支援を必要とする生徒の情報交換を、定期的に行い、スクールカウンセラーや保護者とも密接に連携しながら適切な援助を行うことができた。	・何か問題の兆候を認めたときには、躊躇することなくスクールカウンセラーにつなぐなど、初動を大切にしてほしい。	A
進路指導	生徒一人ひとりの自己実現に向けた支援の充実	・生徒一人ひとりの能力や適性に合った適切な目標設定ができるよう、面談などの個別指導を充実させ、進路だより等により、総合型選抜や高校推薦型選抜を含めた大学受験に関する情報を保護者・生徒に分かりやすく伝える。	4: 進路だよりを20回以上作成した。 3: 進路だよりを15回以上作成した。 2: 進路だよりを10回以上作成した。 1: 進路だよりを5回以上作成した。	3	・面談や個別指導については各学年で十分に取り組んだ。また、「進路だより」を全校生徒向けに15回発行し、大学受験に関する情報を保護者・生徒に分かりやすく伝えるように努めた。また、1年生対象に「進路通信」を9回発行し、入学後の早い段階から進路について考える機会を増やした。	・入学後早い段階から進路について考える機会を増やしていただきたい。早い段階での取組が重要と思われる。	B
	3年間を見すえた継続的な進路指導体制の構築	・進路検討会等により、進路指導部と学年団が連携して指導に当たる体制を作り、指導において、担任により指導内容に個人差が出ないよう支援する。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・進路指導の一環としての文理選択などを含めて各学年とも年2回以上の進路検討会を実施するなど、学年団と連携して取り組むことができた。	・これまでも課題であった、より高い目標を設定させて取り組ませることができるようにしてほしい。	B
	思考力・判断力・表現力の育成に向けた学習指導体制の充実	・教員の授業力や進路指導における資質向上のため、予備校や大学での研修への参加希望を支援するとともに、各学力層に応じた指導が行えるよう、模試分析や授業・課外等において各教科と連携を図る。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・コロナ禍により、研修への参加が難しい状況が続いたが、昨年よりは対面型の研究会への参加が増えた。模試分析や授業・課外等において各教科と連携もある程度はできた。	・実際に現場体験をすることで大学に対するイメージが湧いてくるのでできる限り参加できる環境を整えていただきたい。 ・教員の授業力向上、進路指導における情報収集能力などは、更なる向上を求めたい。	B

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
健康・安全	生徒と教職員との協同安全衛生管理体制の確立	・新型コロナウイルス感染症の感染防止に係る衛生管理を管理職、教職員だけでなく、さらに保健整備委員とも連携を図りながら徹底することで、校内における感染拡大がないようにする。	4: 校内で感染の広がりがなかった。 3: 校内での感染を最小限に踏みとどめた。 2: 校内でクラスターが生じた。 1: 校内でクラスターが生じ、全校に拡大した。	3	・年間を通して生徒と教職員の意識を高く保つことができ、クラスターが生じるレベルの感染拡大は無かった。	・感染法上の位置づけが2類から5類に変更され、マスク着用が個人の判断に委ねられることになる。感染防止対策をとる上では、難しさを増すと思われるが、必要な取組をPTAと連携しながら進めてほしい。	B
	生徒と教職員との協同健康管理体制の確立	・感染症に係る最新情報や学校の取組（委員会活動等を含む）を、「ほけんだより」で適宜公開することで、生徒と保護者に周知する。	4: 肯定評価が85%以上。 3: 肯定評価が80%以上。 2: 肯定評価が79%以下。 1: 肯定評価が69%以下。	4	・毎月の「ほけんだより」(12回発行)等でこまめに情報提供することができた。学校保健安全委員会で学校医等から指導いただいたことを「ほけんだより」に載せ、生徒・保護者へ啓発した。	・コロナで運営が難しい中、十分な対応を行っている。	A
	生徒と教職員との協同生涯スポーツ推進体制の確立	・新型コロナウイルス感染症防止体制の中で、新体力テスト、クラスマッチ、体育大会等の体育的行事の実施方法を検討し、あらゆる状況においても、各自の健康の保持・増進を図っていけるよう支援していき、100%実施(中止しない)を目指す。	4: すべて実施できた。 3: 1つ中止した。 2: 2つ中止した。 1: 3つ中止した。	4	・コロナ対策をしながら、できるだけ従来の方式に戻しつつも、規制を強要せず、無理をさせないように注意して行うことですべての行事を実施できた。	・現状に関するアンケートにおいて生徒、保護者ともに学校行事に対する満足度の評価が上がっている。工夫しながらも諸行事を実施したためと思われる。評価したい。 ・コロナ禍の中、意見を集約しすべての行事が実施できたことは高く評価できるものと考えている。 ・体育的行事の積極的な開催を願う。	A
図書・情報	図書館利用者の増加	・図書館の充実を図るとともに、読書会の形を多様化し、参加者の裾野を広げるアイデアを出していく。	4: 読書会開催が5回以上。 3: 読書会開催が3回以上。 2: 読書会開催が2回以上。 1: 読書会開催ができなかった。	4	・図書館の蔵書のレイアウトを改善し、明るく書籍を探しやすい図書館になるよう工夫した。 ・読書会でビブリオバトルを開催し、生徒の読書に対する意欲が上がるよう、努力した。月ごとに入架した書籍を広く紹介した。 ・生徒にPOPを制作させ、図書館内に掲示した。図書だより(7回発行)、図書館通信(6回発行)を発行した。	・様々な取組や工夫をしていることは十分理解できるが、現状として図書館利用者が少ないことが課題として挙げられている。さらなる取組を期待したい。 ・図書室を見学したが、つい本を手にとってみたくなるような環境が準備されていると感じる。図書室に入るまでのインセンティブを検討されたい。	A
	成績処理等にかかわるシステムの確立	・校務支援システムの円滑な運用を図り、教務部・進路指導部と連携しながら各業務の支援をする。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・当システムの使いづらさもある中で、運用における問題点としてあげることがなかった。	・引き続きミスのない対応を進めてほしい。	A
	校務情報の共有化と個人情報管理の徹底	・個人情報の管理や機器等のセキュリティを確保しながら、より使い易いシステム運用を進めていく。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・情報セキュリティについては、適宜情報の提供を行った。情報管理上の問題は発生していない。	・「セキュリティ」を保つ上では、研修会などの情報提供以上の活動も検討いただきたい。	A
教育企画	探究科における教育活動の充実	・学校設定科目である「基礎探究」「発展探究」「人文社会科学探究」「自然科学探究」等の授業において、探究科の生徒に「課題を発見する力」「課題を解決する力」「成果を表現する力」を育む取組を充実させる。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・基礎探究(1年次)では、夏休みディスカバリープロジェクトなど様々な取組を通して、課題を発見し解決方法を考える力を身につけ、来年度の課題研究に備えることができた。発展探究(2年次)では、研究班に分かれて課題研究に取り組み、中間報告会や校内発表会で成果を披露することができた。「人文社会科学探究」と「自然科学探究」(3年次)では、学校外で開催される課題研究発表会に向けて準備を進め、参加するとともに、大学入試に向けて課題解決学習を進めることができた。なお、3年次生は、学校外で開催された発表会やコンテストに、過去最高となるのべ24研究班が参加することができた。	・盛りだくさんの取組やその情報発信など膨大な業務を行い、成果を出しておられることを高く評価したい。ただ、様々な取組を行うときにはこの取組、行事を行う意義、目的の確認や計画全体における位置づけを明らかにして取り組むことが大切であると思う。 ・場合によっては、スクラップ&ビルド、選択と集中も必要ではないか。 ・情報の共有化を年度を超えて行っていただきたい。グラフ表示にエクセル以外のソフトを使うことも御検討いただきたい。 ・学びの楽しさを生徒が実感できるよう、更なる工夫を期待したい。	A
	探究科等で取り組む探究活動の情報発信の推進	・本校が取り組む探究活動等特色ある教育活動を周知するための広報用リーフレット「学びの速報」を、適宜発行するとともに、中学生を対象とした「探究科体験学習」や小学生を対象とした「わくわく探究教室」において、探究科の魅力を発信する。また、山口県立下関西高等学校探究学習生徒研究発表会を開催し、中学生とその保護者に探究活動の成果を周知する。	4: 「学びの速報」等、情報発信が12回以上。 3: 「学びの速報」等、情報発信が10回以上。 2: 「学びの速報」等、情報発信が8回以上。 1: 「学びの速報」等、情報発信が7回以下。	4	・「わくわく探究教室」や「探究科体験学習」を開催し、小・中学生やその保護者に探究科や課題解決学習の魅力を伝えることができた。また、広報用リーフレットである「学びの速報」は1月末現在で、22回発行することができた。「学びの速報」は、機会を捉えては、小中学生にも配布した。	・「探究科体験学習」や「わくわく探究教室」は、西高の魅力を伝える素晴らしい取組だと思う。教職員の負担も大きいかとは思いますが、今後も取り組んでいただきたい企画の一つである。	A
	先進的な理数教育の充実等、SSH事業に係る研究開発の推進	・「ユニットカリキュラム」や「リレー探究」を実践し、生徒に深い学びを体験させるとともに、社会や自然の事物・現象を多様な視点から見る力を育む取組を充実させる。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・「ユニットカリキュラム」や「リレー探究」により、課題解決に向け学びを深めることの大切さに気付くとともに、多様な視点から課題を発見することができることを学ぶことができた。なお、1月末現在、ユニットカリキュラムはのべ32回実施することができた。また、リレー探究は、普通科2年次生と探究科1年次生対象の授業をそれぞれ実施することができた。	・コロナで運営が難しい中、十分に取組を行っている。	A
業務改善	学校の組織等	新型コロナウイルス感染症対応計画を改訂するとともに、綱紀保持意識の高揚を図るため計画的・組織的な対応ができる組織づくりに努める。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・国や県のマニュアルの改訂を踏まえて「新型コロナウイルス感染症対応計画」を改訂し、組織的に感染対策を講ずる体制を強化した。また、綱紀保持の徹底を図るため、県教委の資料等を活用して計画的に校内研修を実施した。	・いじめの問題、生徒の心のケアに関する学校の取組では、難しい問題であるにもかかわらず、しっかりとした体制を整え、対応していただいていると感じる。	A
	日常業務	多忙化解消に向けて業務内容を精選し、効率化を図ることで時間外在校等時間の減少につなげる。	4: 時間外在校等時間の月平均が45時間以下。 3: 時間外在校等時間の月平均が55時間以下。 2: 時間外在校等時間の月平均が65時間以下。 1: 時間外在校等時間の月平均が65時間以上。	3	・会議時間の短縮、教員間の業務の平準化(業務量の大きい業務を副担当に割り振るなど)等により、前年度に比べて今年度と時間外在校等時間を減少させることができ、働き方改革を推進することができた。	・業務効率の改善は困難な課題と思慮するが、時間外在校等時間を削減されたことは高く評価されるものと考えている。 ・更なるスリム化に努めていただきたい。一方で、真に必要な対応等が遅れたり、おざなりとなることのないようお願いしたい。	B
	働き方改革・勤務状況	健康で明るい職場づくりを構築する中で、福利厚生を進め、休暇等が取得しやすい職場環境をつくる。	4: 年休取得平均10日以上。 3: 年休取得平均7日以上。 2: 年休取得平均6日以下。 1: 年休取得平均4日以下。	3	・コミュニケーションを構築する中で明るい職場環境づくりを推進することができた。また、教職員面談等を通じて、健康面の確認を進めた。	・引き続き、「明るい職場環境づくり」を進めていただきたい。	B

## 5 学校評価総括(取組の成果と課題)と次年度への改善策

### 【学校運営】

○校外研修については、実施に当たり対応に苦慮することはあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により計画を抜本的に見直し、普通科、探究科とも目的地を北海道に変更して実施することができた。

○今年度の入学式、卒業式は、保護者の参加人数やマスクの着用等を検討していく中で全て実施することができた。今後も新型コロナウイルスへの対応の変化に対応しながら、さまざまな活動を従前の形に戻せるように進めていく。

○メール配信については、コロナ感染情報を含め、災害等による緊急連絡から、事務室からの連絡に至るまで、回数は増加した。来年度も各受信者へ必要な情報提供を行い、全受信者が適切かつ重要な情報を確実に受信できるようにしたい。また、新年度のできるだけ早い時期に新入生全家庭の緊急メールの登録をめざすために、来年度は入学式当日迄の登録を進めていく。

### 【学習指導】

○観点別学習状況の評価が、生徒指導要録や通知票に円滑に記載できるよう、情報提供や協議等を3回行った。また、今年度実施した経験やノウハウをもとに、生徒の学習改善や教員の授業改善につながるよう評価と指導の一体化を更に図っていく。

○新校務支援システムにおいて、成績処理、出欠統計、指導要録作成及び調査書作成等のため、情報部・進路指導部と連携して、マニュアルの作成や改善に取り組んだ。その結果、処理の遅延等はなく、業務を遂行できた。また、新校務支援システムの使用開始から3年が経過したが、依然として課題はある。今後も他校とも情報交換を行いながら教科担当及び担任の業務支援を行っていく。

○アクティブ・ラーニングに積極的に取り組み、確かな学力を定着させるための学習環境を整備した。アンケートで「授業にアクティブ・ラーニングを取り入れている」の質問に対して、肯定的回答は72%(教員回答)、84%(生徒回答)であった。このアンケート結果を受け、教員はもっと自信をもって取り組んでいくことができるように啓発していきたい。

### 【生徒指導・教育相談】

○コロナ感染症拡大防止のため、全校で集まる機会は少なかったが、ホームルームや登校指導・通学路指導等とおして、ルールやマナーについての指導を行った。また、1年生に対する新入生情報モラル教室及び情報モラル研修会を実施するとともに、他学年に対してもSNSの利用などについて、継続的に指導をしていく。

○いじめアンケート、生徒実態調査及び生徒や担任からの情報に基づき、生徒の実態把握に努め、いじめが疑われる場合は対策委員会を開き、対応を検討した。また、学校行事やホームルーム活動、部活動等、コロナ前の状態に戻しながら、協調性を身に付けてよりよい人間関係を構築できるよう促す。

○生徒情報について、定期的な情報交換の場をもった。また、スクールカウンセラーや保護者と緊密に連携して適切な援助を行った。来年度も、全教員で支援を必要とする生徒の情報を共有し、問題の兆候に対してスクールカウンセラーや保護者と連携し、迅速に対応していく。

### 【進路指導】

○生徒個別への指導は学年ごとの進路検討会やそれを受けての生徒との個別面談や保護者を交えた三者面談等で十分に実施することができた。引き続き進路だより等で生徒への進路意識の高揚を図りたいが、来年度は新たに2年生向けの進路通信を発行するなどして多面的な進路指導の充実に努めていきたい。

○適切な文理選択、履修選択、志望校検討等、各学年の課題に対して、それぞれ年間2回以上の進路検討会を実施し、分掌と各学年の連携を図ることができた。検討会議の回数は十分であるが、進路検討会に学年を超えて多くの教員が気軽に参加し、生徒の進路について情報を共有できる体制を構築していきたいと考えている。

○各予備校などが主催する学習指導に関する教員対象の研究会への参加において、コロナ禍により対面型は難しかったが、オンライン型に参加する人数が少し増えた。改善策として、進路指導に関する業務でスクラップが可能なものを少し整理し、教員の研究会や大学訪問への参加が実施しやすい環境整備に努めたい。

### 【健康・安全】

○新型コロナウイルス感染症対策について、管理職、学校医、教職員が連携を図り、「ほけんだより」でこまめに生徒、保護者に情報提供することで校内での感染を最小限に食い止めることができた。

○各種検診及び新体力テスト、クラスマッチ、体育大会等すべての行事を工夫して実施することができた。

○令和5年度から、新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類に変更され、マスク着用が個人の判断で行われることになる。PTAと連携しながら、感染症対策を検討しつつ、学校行事を充実させていく。

### 【図書・情報】

○図書館の配架等の工夫や新刊を中心に書籍への興味を喚起する工夫を図ることができた。また、図書館を利用した授業ならではの展開を模索していく。

○校務支援システムについては、教育課程による大幅なシステム変更に対応すべく、県とのやりとりを行いながら、対応している。マニュアルも毎年更新しなければならないのが実情である。来年度も校務支援システムについての対応を、これまで通り、変更点・問題点や希望を県やヘルプデスクに問い合わせながら、業務に遅延のないよう対応していきたい。

○情報セキュリティについては、個人情報保護、セキュリティ対策、教育現場での著作権の範囲等、適宜情報の提供を行い、適切な運用ができた。今後も機器の老朽化状況やソフトウェア等の更新・変更予定等を考慮しながら対応する必要がある。外部指導員による研修会等も適宜行っていきたい。

### 【教育企画】

○アンケート調査の結果、普通科及び探究科の生徒の多くが課題を発見し解決する力が身についたと答えている。また、発表方法の改善に取り組みたいと答えていた。さらに、普通科、探究科ともに各年次で育みたい力を定め、課題研究をはじめとする教育活動を推進してきた。今後もアンケート調査を参考にしながらスクラップに取り組むとともに、取組の改善に努めてまいりたい。なお、発表会等で、指摘を受けていることについては、指導を充実させていきたいと考えている。

○本校の探究活動を「学びの速報」により周知するとともに、スーパーサイエンスハイスクール事業で推進した研究開発の成果をリーフレットにまとめることができた。また、令和元年度のわくわく探究教室に参加した当時の小学生が、来年度高等学校に入学する。追跡調査の実施について検討するとともに、令和8年度に設置される併設中学校を見据え、内容の改善に努めてまいりたい。

○今年度も、文系と理系が融合した学びや教科の枠にとらわれない学びを推進することができた。また、コロナ禍で制約が生じたものの、工夫により実践することができた。今年度から始まった新学習指導要領を踏まえた実践となるよう、引き続き改善に努めてまいりたい。

### 【業務改善】

○新型コロナウイルス感染症対応においては学校全体で組織的に対応する体制を整備し、校内における感染拡大を防止することができた。また、綱紀保持に係る校内研修等を計画的に実施し、教職員の意識高揚を図ることができた。今後は、新型コロナウイルス感染症対応に係る国や県の新たな方針を踏まえ、従前の教育活動を展開することができるようにするとともに、ノウハウが継承されるよう努める。また、綱紀保持については、具体的な事例を参考に校内研修を行うなど、教職員一人ひとりが自分事として意識することができるようにする。

○職員会議等の審議事項・連絡事項を整理するなどして会議時間の短縮を図るとともに、教員間の業務の平準化を図ることで、業務改善を推進することができた。今後は、業務の見直し・精選を着実に進めるとともに、正副担当間で有機的に連携するなどして教員間の業務の平準化を一層推進する。また、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、中止や規模縮小、オンライン実施等の対応をとった業務については、一律に従前の対応に戻すのではなく、これを契機として業務のスリム化を検討する。

○職員室内の作業コーナーを有効に活用することで情報共有やコミュニケーションの充実を図ることができた。今後は、業務の平準化を進めることで年休や代休等の取得しやすい職場環境とする。